

神戸一のNPOをめざそう

堺新理事長にインタビュー

会員数が1300人を超えたグループ〈わ〉。この集団をまとめ、発展させる大きな役割を担うことになった堺汎新理事長に、課題と抱負を聞きました。（広報・北村洋・井口久美子）

—理事長就任おめでとうございます。まず、抱負から聞かせて下さい。

堺 若い会員、新しい理事が増え、新鮮なパワーに期待するところ大です。私も頑張ります。カレッジは20周年を迎えますが、これを機に、グループ〈わ〉も組織の若返り、新旧交代をうまくやって継続的な発展をはかりたい。目指すは神戸でナンバーワンのNPOです。

—新しいイベントや事業は？

堺 開校20周年記念事業で〈わ〉が主催する「震災シンポ」に全力をあげ、卒業生・在校生と共に喜びを盛り上げたいですね。植樹した桜の面倒をみる「桜守りの会」も考えています。

地域人材センター（長田区）で始めたパソコン講座が定着しつつあり、これを軌道に乗せることも大事なことです。

—東北支援活動はどうなりますか。

堺 7月に派遣する第4次支援チームに全力を注ぎます。その後は、パイプが細くなっても、これまでに繋がりがあった地域を重点に、あと数年は続けたいですね。

—カレッジ事務局と〈わ〉と同窓会を統合して校友会的な組織を作るという話がありましたね。

堺 〈わ〉はボランティア団体、同窓会は親睦の集まりと目的が異なるので、単純な統合は難しく、なかなか話がまとまりません。双方の力を結集すれば、もっと幅広い活動ができるのではないかと、思っていますが…。

—組織の今後や活動についての課題は？

堺 今年も4サークルが誕生しましたが、廃部もありました。他のサークルも含め、活動が持続できるようなシステムやサポートが必要ですね。

カレッジ生の知識・人生経験はすばらしい。それらを生かした夢のある活動ができる環境づくりが、〈わ〉の役割だと思っています。

—広報活動に望むこと。

堺 〈わ〉の活動は、事業と広報が大きな推進力となっており、重視しています。ホームページの充実、徐々に進んでいますが、お知らせなどの「メール配信」を考えてはどうでしょうか。

—メルマガ会員ですか。面白いですね。会員のパソコン普及率を見ながら、広報で検討してみます。本日はありがとうございました。

◆プロフィール：園芸15期（西区会）。H23年から理事。夫人（音9）も学習支援や、西区会役員として活



車椅子テニスをサポート

第2 0回神戸オープン（車いす）テニス大会が、4月26日から29日まで三木市のブルボンビーンズドームで行われ、グループ〈わ〉の国際部会と北区会から、15人がボランティアとして裏方のお手伝いをしました。

今回は、韓国の4選手を含め、98人が参加。4日間にわたって熱戦を繰り広げ、男子は真田卓選手、女子は上地結衣選手が優勝しました。



支援活動は、関西空港と神戸空港での送り迎え、

添乗補助、宿舎（西神オリエンタルホテル）からの送迎バス介助、飲み物・弁当の配布、廃棄物回収など多彩。〈わ〉の15人は大会運営の中心となって早朝から夕方までフル回転しました。選手たちは表情も明るく、送迎バスの中は賑やかな会話が飛び交い、こちらも一緒に大声で笑ってしまうほど。初めて活動に参加したAさんは、「選手はまったくハンデを感じさせず、逆に元気をもらいました。来年もお手伝いできれば」と話していました。最後にパラリンピック優勝経験の国枝真吾選手を囲んでハイ、ポーズ。=写真左・土井昭政撮影。

グループわは、7年前から大会ボランティアに参加しており、29日に行われた記念式典には西田理事長、堺副理事長がゲストとして招待されました。

（国際部会長：柳川瀬淳一）